

基礎看護学実習

ナンバリング:N1-S1-C09

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 野里 同 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、看護専門基礎講座		
対象学年	1	区分/単位数	実習/1単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

病院や介護現場ではどのような職種の人たちが働き、それぞれチームとしてどのように協力し合っているのかを学ぶ。医療・介護施設で生活している患者・入所者とその人々をめぐる環境への理解を深めるとともに、対象者への援助の実際を体験し、学びを深める。

・教育成果(アウトカム)

看護職を目指す者として、病院や介護現場はどのようなところなのかを学び、さらに、どのような職種の人たちが働き、それぞれの役割は何かを学ぶことで、看護職がチーム医療の中で、どのような役割を果たしているのかを理解することができる。さらに、実習体験を通して、患者・入所者のさまざまな思いを感じることができ、看護師の指導のもとで、可能な範囲で、既習の看護技術を実施することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。

・到達目標(SBO)

(病院実習)

1. 病院で生活している患者の日常生活の様子と患者の思いを説明することができる。
2. 病院にどのような人たちが働き、どのような役割を担っているのか、その方々はどのように患者に関わっているのかを知り、説明することができる。
3. 既習の看護技術を指導のもと実施できる。
4. 看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる。

(介護施設実習)

5. 入所者の日常生活の様子と入所者の思いを説明することができる。
6. 施設にどのような人たちが働き、どのような役割と関わりをしているか説明することができる。
7. 介護実践において気を付けるべき点を挙げるができる。
8. 看護学生として責任のある態度を身につけることができる。

・授業日程

日程	1週目 10/6(火)~10/9(金) 2週目 10/13(火)~10/16(金)		
担当教員	共通基盤看護学講座 野里 同 教授 柏木 ゆきえ 准教授 小林 由美子 講師 松田 悠史 講師 佐藤 奈美枝 教授 伊藤 奈央 准教授 小坂 未来 講師 三上 邦子 講師 畑中 るり子 助教	地域包括ケア講座 高崎 邦子 講師 菊池 佑弥 助教	看護専門基礎講座 塚本 恭正 准教授 一ノ渡 学 講師

授業内容/到達目標	【到達目標】 (病院実習) 1. 病院で生活している患者の日常生活の様子と患者の思いを説明することができる。 2. 病院にどのような人たちが働き、どのような役割を担っているのか、その方々はどのように患者に関わっているのかを知り、説明することができる。 3. 既習の看護技術を指導のもと実施できる。 4. 看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる。 (介護施設実習) 5. 入所者の日常生活の様子と入所者の思いを説明することができる。 6. 施設にどのような人たちが働き、どのような役割と関わりをしているか説明することができる。 7. 介護実践において気を付けるべき点を挙げるができる。 8. 看護学生として責任のある態度を身につけることができる。
	【実習内容】 病院実習、介護施設実習それぞれで、1グループ数名を配置し、病院および 介護施設において実習を行う。 1)病院実習 (1) 病院・病棟のオリエンテーションを受ける (2) 実習病院および病棟内の見学をする (3) 看護師に同行し看護ケアの実際をシャドウイングする (4) 看護師の指導のもと対象者への援助を体験する (5) カンファレンスを通して実習中に感じたことや学んだことを発表し学びを共有する (6) 実習最終日に行う病院実習報告会で病院実習全体を通しての学びを共有する 【関連するSBO】 1.2.3.4 2)介護施設実習 (1)施設オリエンテーションを受ける (2)介護施設内を見学する (3)介護実践活動を見学・体験する

教:教科書 参:参考書 推:推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	系統看護学講座 基礎看護学[1]看護学概論第18版	茂野香おる 他	医学書院	2026
教	看護がみえるvol.1基礎看護技術 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2024
教	看護がみえるvol.2臨床看護技術 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2024
教	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2023
参	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術第3版	任和子, 井川順子	医学書院	2021

・成績評価方法

【総括的評価】								
病院実習(70%)と、介護施設実習(30%)で評価する(100%)								
※病院実習評価表、介護施設実習評価表、レポート課題は実習要項に記載								
【形成的評価】								
看護学臨地実習においては、実践や記録に関して、教員・指導者からの助言がなされる。助言内容を理解し、省察することが自身の成長につながる。								
DP	SBO	小テスト	定期試験	課題	GW	実技	その他	合計
1~4、7	1~8						100	100
合計		0	0	0	0	0	100	100
〈備考〉								

・特記事項・その他

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 毎日の実習記録については、適宜コメントを伝える。 カンファレンスに参加し、助言を伝える。 病院実習終了時には、実習評価表に基づいた個別面談を行い、学生とともに実習全体を振り返る。
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3):臨地実習 基礎看護学
【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有(なければ「無」) 大学病院等における看護師の実務経験を有する教員が、基礎看護学領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
	機器・器具は、実習病院の備品を使用する。		